

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：13401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780476

研究課題名(和文) フィンランドの大学における実践を核とした教師教育者育成についての探究

研究課題名(英文) Inquiry on Professional Development of Teacher Educators' Practice in Finnish University

研究代表者

隼瀬 悠里 (Hayase, Yuri)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成・院)・講師

研究者番号：90611773

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：現在日本で提唱されている「学び続ける教員像」といえる教員像を持って、高度専門職業人としての教師教育に取り組んでいるフィンランドを対象として、そうした教師教育の育成がいかに行われているかとその特徴について、国際比較の視点から探究を進めた。

国際的な動向として、教師教育者のスタンダード策定や研修制度が整備されつつある一方で、フィンランドでは大学を核としながらも、自律的に教師が成長し、学び合うことを支えるために、教師自身が教師教育者となるための育成がされていることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This research's aim is inquiring how to develop teacher educators' professionalism in Finnish University by comparing international trend. The idea that "teachers as learning profession" is shared in educational reform of teacher education in Japan. Teachers have been educated in Master's level since 1970s in Finland. Teachers have autonomy for their work and they are respected as high professionals. Developing standards for teacher educators is international trend and sharing vision among teacher educators and building network is highlighted. There is no standard for teacher educators but building network and supporting teachers by teachers themselves through sharing their practice in universities as platform are Finnish features. Teachers themselves become teacher educators is direction in Finland.

研究分野：教師教育、比較教育

キーワード：フィンランド 教師教育者

## 1. 研究開始当初の背景

2012年8月に出された中教審「共食生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」では、大学における高度専門職業人としての教師教育を掲げ、教員養成の修士レベル化とともに、現職研修も大学と教育委員会がより連携して推進する必要があることが提言されている。つまり、養成から研修までを含む教師教育に大学がより一層の責任を持つことが求められている。その後、教育再生実行会議は教員養成過程の実践型カリキュラムへの転換を提言するなど、教育内容の抜本的見直しがされようとしている。このような改革のなか、高度専門職業人としての教師教育を担う教師教育者の育成が急務の課題となっている。教師教育者の資質能力についてはかねてから議論の対象となっており、1986年の臨教審答申「教育改革に関する第2次答申」でも、「教員養成担当の教員自身が実践経験に乏しいことも教育内容を充実する上で一つの問題」と指摘されていた。

それにも関わらず、日本では、教師教育者育成に関する研究や実践だけでなく、教師教育者そのものの定義やどのような資質能力が必要か、といった議論も進んでいないのが現状である。一方で、諸外国に目を向けると、欧米を中心に、教師教育者についての議論や研究が進んでいる。

本研究では、30年以上前から修士レベルでの高度専門職業人として教員養成大学を行っているフィンランドを研究対象として教師教育者の育成について検討を進める。フィンランドでは、1970年代から“teacher as researcher”(「実践研究者としての」教師)という教員像を持って、生涯にわたって自律的に専門性の開発にとりくむ教員養成に取り組んでいる。

## 2. 研究の目的

先述したように、フィンランドでは現在日本で提唱されている「学び続ける教員像」といえる教員像を持って高度専門職業人としての教師教育に取り組んでおり、実践を核としたカリキュラムが構築されている。

本研究では、フィンランドにおける教師教育者の位置づけと育成の在り方について探究することで、日本の教師教育者育成への示唆を得ることを目的とする。

そのために、本研究では教師教育者を研究課題の中心に据えているため、まず教師教育者についての国際的な概念整理を行い、教師教育者に求められる資質能力を検討する中で、フィンランドにおける教師教育者育成の位置づけを明確にする。

また、そうした位置づけにおいて、フィンランドの大学における実践を核とした教師

教育者育成の特徴と課題を明らかにする。

## 3. 研究の方法

### (1) 国際的な教師教育者に関する研究・動向整理

国際的な動向を踏まえた教師教育者の定義についての概念整理を進めるに当たり、文献を中心とした先行研究を整理するとともに、教師教育者を専門職の一つとして位置づけ、専門職協会が設立されている国についても焦点を当て、アメリカやオランダの教師教育者スタンダードの検討も進めた。また、ヨーロッパ教師教育学会(Association for Teacher Education in Europe: ATEE)の研究大会における教師教育者の専門性開発に関する課題研究部会に継続的に参加することによって、積極的な意見交換を通して、現在の教師教育者育成に関する議論の到達点を確認した。

### (2) フィンランドにおける現地調査

また、これらの国際的な動向を踏まえ、フィンランドにおいて、学校関係者や大学関係者へのインタビュー等の現地調査を行い、フィンランドの大学における実践を核とした教師教育者育成の特徴と課題を明確にした。

## 4. 研究成果

まず、国際的な教師教育者の議論の動向を整理し、いかに教師教育者やその専門性が捕らえられているかについて比較考察を行い、論文としてまとめた。

具体的には、アメリカで1920年に学校を基盤とする教師教育者と大学を基盤とする教師教育者双方の教師教育を改善するための国家規模の組織として設立された、専門職協会である教師教育者協会(The Association of Teacher Educators: ATE)の教師教育者スタンダードや、欧州理事会が2009年に採択した「教育・訓練2020」におけるワークプログラムの1つである「コメニウス・プログラム」のなかで、教師教育者に関する政策アプローチに関して、9カ国の教育省や教師教育機関の関係者が4日間にわたって実施した「ピア学習活動(Peer Learning Activity: PLA)」を実施し、教師教育者についての概念や求められる専門分野やコンピテンシーについて整理したものの、ATEEでも中心的なメンバーが多いオランダの教師教育者協会(VELON)の教師教育者スタンダードについて検討し、教師教育者の射程や、必要とされるコンピテンシーについての考察を行った。

また、こうしたスタンダードの設定を通し

て、教師教育者の専門性開発についての議論や質保証のためのプラットフォームを整備しようとしていることを指摘した。これらのスタンダードに共通していることとして、各々の分野や所属機関に閉じるのではなく、教師教育全体のビジョンを共有し、連携し、協働していくことを促していることも明らかとなった。その一方で、教師教育者の射程については、ATEEが行政関係者までその射程を広く設定しているのに対し、PLAやVELONは高等教育機関と学校における教師教育者のみを射程としているなど、様々であった。また、PLAやVELONでは、教師教育者に対して、模範的な役割を求めていることが特徴として挙げることができた。

ATEEにおける教師教育者の専門性開発に関する課題研究部会への継続的な参加では、各々が置かれている国の状況や、自身が教師教育者として働くなかで感じる課題を共有するなどした。教師教育者としてのアイデンティティの葛藤や、研究基盤の不安定さなどが議論となっており、こうした議論がベースをして、課題研究部会のメンバーの一人として、それぞれが教師教育者になるまでのライフストーリーをまとめ、ハンドブックにして国際的に共有するという作業にも加わった。

フィンランドにおける実地調査では、国家教育エージェンシーや学校、ユバスキュラ大学においてインタビュー調査や情報収集を行った。国家教育エージェンシーにおけるインタビューでは、修士レベルでの大学における教員養成によって、実践における教師の児童・生徒に対する観察能力や分析能力が向上することで、教師教育自身の研究能力が高まり、結果として専門性開発に寄与していることが指摘されていた。これに関連して、教育実習生の理論と実践の往還に実習校指導教員の与える影響が高いことは、以前実施した現地調査から明らかとなっており、フィンランドでは教員養成制度が博士課程への進学も可能としていることによって、大学が広義の教師教育者育成の場として機能していることを論文の中でも指摘している。

また、学校や大学におけるインタビューでは、新採用教員へのサポートが課題となっており、学校内や学校を超えたメンタリング制度が導入され始めていることが明らかとなった。こうした取組は国の政策でも注目されており、2016年に出された教師教育振興計画の柱の一つにもなっていた。全国的に大学を拠点として、実践を共有し、支え合うためのシステム構築が目指されており、そうしたシステムにおいて新採用教員を支えるメンターの育成が行われていることも明らかとなった。こうした動向については、日本教師教育学会の課題研究部会において報告を行った。

国際的な動向として、スタンダード策定や研修制度が構築されている一方で、フィンランドはスタンダードなどの指標の開発や教

師教育者の定義についての取組はしていなかった。しかし、大学を核としながらも、自律的に教師が成長し、学び合うために、教師自身が教師教育者となるための育成がされていることが明らかとなり、そうしたネットワークを全国的に構築しようとしていることが明らかとなった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

隼瀬悠里「国際的な教師教育者に関する動向整理-教師教育者スタンダードの比較考察を中心に-」福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻『教師教育研究』、査読無、第10号、2017年、pp.3-9.

隼瀬悠里「フィンランドにおける「実践研究者としての教師」養成に関する考察」福井大学教育地域科学部『福井大学教育地域科学部紀要』、査読有、第5号、2015年、pp.249-261.

[学会発表](計 3 件)

隼瀬悠里「フィンランドにおける教師の専門性と教員養成の質的向上策」日本教師教育学会第27回大会課題研究、奈良教育大学、2017年10月。

隼瀬悠里「フィンランドにおける教員養成カリキュラムの受容と課題についての一考察」日本教師教育学会第26回大会自由研究発表、帝京大学、2016年9月。

澤野由起子・渡邊あや・本所恵・林寛平・隼瀬悠里・佐藤裕紀・長谷川裕子「北欧諸国は国際学力調査をどう活用しているのか」日本比較教育学会第50回研究大会ラウンドテーブル、名古屋大学、2014年7月。

[図書](計 1 件)

Yuri Hayase 'a novice teacher educator' in Peter Louist and Anja Swennen "Life and Work of Teacher Educators" HU University of Applied Sciences Utrecht, 2016, pp.13-15.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

隼瀬 悠里 (HAYASE Yuri)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成・院)・講師

研究者番号：90611773